

決算審査



会派代表質問 公明党

人口増戦略は、うまくいったのか？

問 第2次総合計画の最終年度である令和4年度を終え、それぞれの人口増戦略の成果と課題について伺う。

答 それぞれの人口増戦略において、様々な指標の目標を達成した。特に、「定住人口増戦略」の「特定不妊治療助成事業利用者数」の出生数、「活動人口増戦略」の「ハッピー・パートナー企業の登録数」、「交流・応援（燕）人口増戦略」の「ふるさと燕応援資金の寄附者数」で大きな成果を上げた。令和4年度における目標人口は達成できなかったが、国立社会保障・人口問題研究所の推計を上回り、人口減少率は県内20市中、少ないほうから2番目となっていたことから一定の成果はあった。コロナ禍で悪化した人流を伴う指標の回復が今後の課題である。



会派代表質問 新風つばめ

令和4年度の重点施策の総括を

問 大京津分水通水100周年事業についての検証はされたのか。事業の成果と今後に活かすべき課題について伺う。

答 成果としては、歴史への関心が薄い年代に対して事業PRを行うために、長善館門下生をイラスト化したクリアファイルや小学生に配布しその活躍を伝え、高校生等には声優朗読劇という新しい手法でアプローチした結果、来場者の半数を10~20代にすることができた。また、ツイッター・川柳コンテストやシヨツパッツ制作等、若者目線の発信を行ったことで、新たな層に事業PRができた。その他、新潟日報とのイベント共催や、県内テレビ局において長善館に関する特別番組が放送されたことで、事業の信頼獲得、市内施設への来場促進、先人たちの活躍等の理解促進が図られ、3つの人口増戦略にも貢献できた。課題については大きく積み残した点ははないと考えている。



大きな予算がかかった特別事業



新たな自主財源の確保を！

問 ふるさと燕応援寄附金だけに依存しない新たな自主財源確保のための対策はあるのか。

答 社会教育施設の使用料見直し、公共施設保有量の適正化、事務事業の見直し、市税等の収納率向上、未利用市有財産の活用、ネーミングライツ制度の導入などを行う。「定住人口増戦略」に基づく施策を推進し、市の歳入の根幹をなす市税の安定確保を図り、持続可能な行政運営に努める。



住みよい燕市で人口増を！

燕市の舵取りを問う代表質問

「代表質問」は会派の総意を表し、各会派で決めた代表者が、市政に取り組む市長の姿勢を買います。市民の皆さんも関心のある問題や施策を、代表者が会派の考えとしてまとめ、会派一丸となったその「質問」

には、重みが出ます。この「代表質問」は、市民の声をさらに市政に届けるための「挑戦」であり、透明性を高めることができます。議会での重要な場のひとつとして、市民の皆さんもぜひご覧ください。

人口減少対策の成果は……

問 「定住人口増戦略」は、3つの人口減少対策の中で最も大きな予算規模で展開されてきたが、その成果を伺う。

答 施策毎の成果としては、産業界では、産学官連携センターシヨツプログラムを実施し、地方創生賞を全国の市町村で初受賞したことで、将来的なリターン創出が期待される。また、首都圏・市外のテレワーカー・企業に対して市内への誘致・創業促進を行ったほか、民間シェアオフィス等の開設を支援したことで、市内企業の新事業開発や販路開拓に繋がっている。子育て支援分野では、不妊治療の自己負担額の全額助成を実施したことで本制度利用による令和4年度の出生数は19人となった。また本市に魅力を感じて移住を希望する方に対し、住宅取得費や家賃一部補助等、様々な支援を実施した。

以上のように各種施策を実施した結果、平成27年の計画策定時の総人口に対する人口減少率が、県内20市の中で減少率が少ないほうから2位となっており、成果があったと考える。